

御宿町地域公共交通計画の評価等進捗（令和6年4月～令和7年3月）

目標	目標を達成するための取組					備考
	評価指標（R9まで）		調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	
①利用ニーズに即した利便性の高い交通ネットワークの形成	【公共交通乗降客数】 ・御宿駅 R4.790人/日→R5.830人	（事業1） 鉄道ネットワークの維持・活性化	事業者が集計したデータより算出	達成状況 R5→820人	乗降客数は、コロナ前（2018年（H30）：1,128人）まで回復していないものの、前年度比較では3.8%増加しており、順調に推移すれば目標達成の見込み。しかし、観光的な要素による利用者は戻りつつあるが、通勤通学といった日常利用者の戻りが鈍い。人口減少や働き方の変化などにより鉄道利用に係る課題はあるが、利用者増加に向けた取組みを関係団体等と連携を図っていく中で鉄道ネットワークの維持・活性化に向けた取組みを進めていく。	
	高速バス 67,599人/年→70,979人	（事業2） 高速バスの維持・サービスの見直し	事業者が集計したデータより算出	達成状況 R5→74,836人 R6→78,946人	乗降客数は、コロナ前まで回復していないものの、前年度の比較では4,110人増加しており、目標を達成した。	
	エビアミー号 4,791人/年→5,400人	（事業3） エビアミー号の利用促進・サービスの強化	事業者が集計したデータより算出	達成状況 R5→5,531人 R6→6,157人	乗降客数は、平成30年の運行開始以降、最も多い6,157人に達し、目標を達成した。住民の日常生活の移動手段として定着しており、1日15人程度の利用で推移していたが、利用者の増加に伴う運行調整が生じている。特に午前中の便に集中することが多いことから、その対応策について事業者と調整する必要がある。	
	勝浦市デマンドタクシー →6人/日以上	（事業3） 勝浦デマンドタクシーの御宿町内への乗入れ	事業者が集計したデータより算出	達成状況 R6.10～R7.3月→622人（10月113人、11月96人、12月107人、1月105人、2月102人、3月99人） 事業周知は、御宿広報・HPのほか、エビアミー号車内にて実施している。 勝浦市への移動目的は通院、買い物が多い。また、勝浦（部原地区）から御宿に移動する方も一定数いる。 利用者6人/日→平均4人/日	令和6年10月から勝浦デマンドタクシーの御宿町内への乗入れを開始した。御宿町内の乗降場所は10か所で、主に御宿駅周辺のほか国道沿いに集中しているため、状況に応じて乗降場所の増設について勝浦市と協議したい。	
	-	（事業4） タクシー事業の維持・利用促進	-	御宿駅を待機場所に2台配車。 個別ニーズに柔軟に対応できるため、乗合運行事業と競合していない。	町内移動は10分～15分程度で対応できているため、利用者の待ち時間の負担は少ない。22時まで待機。 エビアミー号を利用した方が帰りにタクシーを利用した場合、料金の半額（500円上限）を補助するお出かけ支援事業は、一定の利用率で推移しており、利用促進につながっている。	
②誰もが利用しやすい交通環境の整備	整備及び機能強化を実施している交通結節点の数 →2か所	（事業5） 交通結節点の整備	-	各交通手段の結節点としては、施設内で待機できる御宿駅や公民館としている。路線バス起点	公民館とJR御宿駅を町外につながる接続点として設定しており、利用者の待合施設としても活用している。乗合運行エビアミー号の共通乗降場所にもなっているほか、乗降スペースも広く安全性も確保できているため、スムーズな乗継ぎと利用しやすい環境づくりに向け検討を進める。	
	-	（事業6） 御宿駅のバリアフリー化の推進 （事業7） 情報発信の強化、DXの検討	-	御宿駅バリアフリー化は引き続き検討する。 情報発信の強化、DXの検討はJR東日本千葉支社による「まるごとわかしくおMAAS」と連携した。	御宿駅バリアフリー化は、ゼロベースから検討を進めることとし、引き続きJR千葉支社と協議調整を図る。 情報発信の強化、DXの検討は、利用者にわかりやすく公共交通の情報を提供できるよう総合交通マップの作成を検討する。支払に係るキャッシュレス対応は、R7年度中に実施する。 JR東日本千葉支社では、外房エリア観光周遊の利便性向上を目的に沿線企業や自治体等と連携しながら地域・観光型MAAS（モビリティ・アクセス/複数の交通手段を予約決済できるサービス）を開始し御宿町も参加した。継続的な取組みとして定着させる夷隅エリアの活性化につなげることが重要。	
③他分野・他産業との連携による利用促進	観光や商業、福祉と連携した協議及び取組回数 →1件以上	（事業8） 商業や観光と連携した利用促進策の検討 （事業9） 福祉分野との連携	-	御宿つるし雛めぐりの開催期間（2.22～3.3）にJRの駅からハイキングを開催。新宿発の特急わかしお号を臨時運行するなど事業連携を図る。また御宿町と勝浦市を結ぶシャトルバスも運行した。 おでかけ支援事業としてタクシー料金の半分の助成しており、1か月60件程度の利用で推移している。	半島振興地域の地域活性化策として、勝浦と御宿の連携事業「ひな祭り事業」を継続的に実施しており、JRのイベントや臨時列車運行なども合わせた取組みとして成果をあげている。今後は、他分野・他産業との連携が重要であることから、いまある地域の強みを活かしながら、持続可能な取組みを検討する必要がある。	
④住民、交通事業者、行政の協働による持続可能な体制づくり	モビリティ・マネジメント施策の取組→1件以上	（事業10） モビリティ・マネジメントの検討・実施	-	エビアミー号を利用するための登録方法を多様化した。JRの切符購入アプリえきねっと登録の相談会を毎月実施。R6年度→13回開催（109人） また、勝浦市が開催したモビリティ・マネジメント講習会に参加し、新たな移動手段事例が紹介された。	エビアミー号を利用するための事前登録は、今までの窓口による申請書提出に加え、ちば電子システムからの登録や電話などでも受け付けることにし、利便性向上を図った。	
	-	（事業11） 運転手不足への対応	-	交通事業者に状況を確認。	公共交通のサービスを維持確保していく上で、運転手確保における取組は重要であることから、引き続き交通事業者と情報を共有しながら求人活動における支援を行う。	
	-	（事業12） 地域住民主体による移動手段の検討	-	先進事例の調査研究	協議検討は行っていないが、先進事例の調査研究は引き続き行うこととする。	